

《企画展》

松阪の女流歌人

たか ばたけ しき ぶ

高富式部展

（和歌に見るひととなり）



高富式部 短冊「七夕の句」(個人蔵)



高富式部 扇画賛(個人蔵)

令和5年 7月1日(土)
~9月10日(日)



松阪市立歴史民俗資料館

(2階 小津安二郎松阪記念館)

三重県松阪市殿町1539番地(松坂城跡内) TEL&FAX 0598-23-2381

入館料 一般 / 150円・6歳以上18歳以下 / 70円

開館時間 9:00~16:30

休館日 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌平日

アクセス 電車: 近鉄 / JR 松阪駅下車徒歩約15分

お車: 松阪ICから約10分

市民病院前の松阪市駐車場(無料)をご利用ください。

※藍の縞模様は、伝統工芸品の「松阪木綿」柄です。

たかばたけしきぶ

高島式部は天明5年(1785)、現在の松阪市西町の商家に生まれました。結婚後は京都に移り住みましたが、26歳で夫が亡くなり、35、6歳の頃に前夫と縁のあった高島清音^{たかばたけきよね}と再婚しました。

清音と結婚したあたりから式部はその多芸・多才な才女ぶりを発揮し始めます。書画・茶の湯を習い、歌は香川景樹^{かがわかげき}に師事しました。景樹の没後は仕えていた千種家^{ちぐさありこと}の当主千種有功^{ちぐさありこう}に学びました。

また、夫清音の影響ではじめた琵琶・笙などの雅楽の演奏と、彫刻細工は一流の腕前でした。残念ながら元治元年(1864)の禁門の変の兵火により、自作の琵琶、書画などは全て焼けてしまいました。しかし、その後に書かれた和歌などは現在でも多くが現存しています。

昨年、高島式部のご子孫より当館へ寄贈された資料をはじめ、松阪周辺に残る主に掛軸、短冊資料から、式部の人物像やその才能を垣間見たいと思います。



高島式部(1785~1881)

「麦の舎集」(本居宣長記念館蔵)



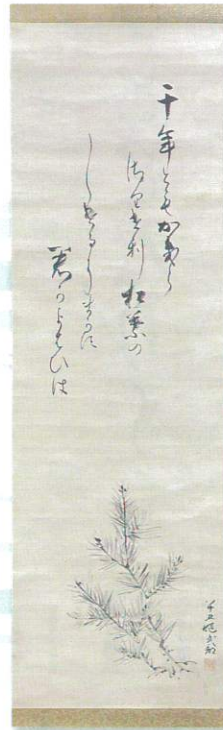
高島式部 賛富士の図
(個人蔵)



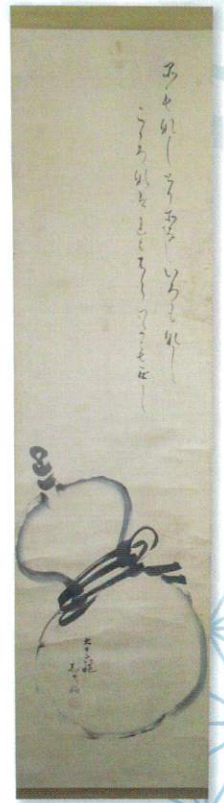
高島式部 短冊
(個人蔵)



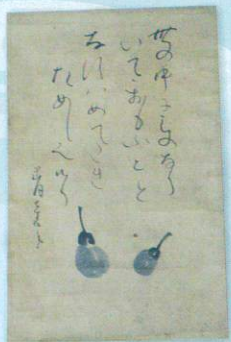
高島式部 松画賛(三幅対のうち二)



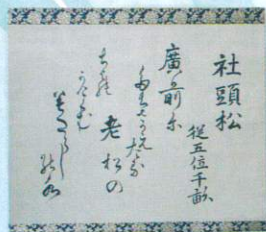
高島式部 瓢筆画賛(個人蔵)



~式部とゆかりのある人物~

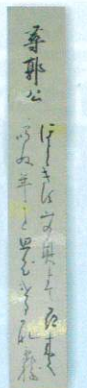


大田垣蓮月 茄子画賛
(個人蔵)



高島千畝 社頭松

香川景樹 短冊(個人蔵)



千種有功 賛雑の図(個人蔵)

